

2024 年度 環境経営レポート

対象期間

2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日



発行日 2025 年 2 月 20 日

株式会社フェローテックマテリアルテクノロジーズ

承認	確認	作成
	  	

目 次

環境経営方針

I. 組織の概要・対象範囲

II. 石川工場活動概要

- 1、 環境負荷削減中期（三カ年）目標
- 2、 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価
- 3、 環境関連法規等の遵守状況
- 4、 2025 年 環境経営目標および環境経営計画

III. 第2工場・開発センター活動概要

- 1、 環境負荷削減中期（三カ年）目標
- 2、 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価
- 3、 2025 年 環境経営目標及び環境経営計画

IV. 関西工場活動概要

- 1、 環境負荷削減中期（三カ年）目標
- 2、 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価
- 3、 環境関連法規等の遵守状況
- 4、 2025 年 環境経営目標および環境経営計画

V. 岡山工場活動概要

- 1、 環境負荷削減中期（三カ年）目標
- 2、 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価
- 3、 環境関連法規等の遵守状況
- 4、 2025 年 環境経営目標および環境経営計画

VI. 代表者による全体見直しの記録

VII. 環境活動事例

環境経営方針

- 1 当社の事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、環境目標を定め、定期的に見直し、環境マネジメントシステムの維持向上に努める。
- 2 環境関連の法令、協定の遵守に努める。
- 3 代表者は本方針を全従業員に周知させ、全従業員は、職場、家庭のみならず、地域社会から地球規模にわたり、環境保全活動の推進に努める。
- 4 当社の環境負荷のうち、以下の項目を環境保全重点テーマとして取り組む。
 - ・エネルギーの無駄やロスの削減に努め、効率化を図る。
(二酸化炭素排出量の低減)
 - ・廃棄物は、最少となるように努め、リサイクルを推進して資源の有効利用に努める。
 - ・地域とコミュニケーションを図り、地域環境の保全に努める。
 - ・水質汚染、大気汚染物質の使用排出抑制、及び、製品含有化学物質管理等グリーン調達に関する、最新の環境規制の対応を進める。

以上

令和6年7月1日

株式会社フェローテックマテリアルテクノロジーズ

代表取締役社長 賀 賢漢

I. 組織の概要・対象範囲

1. 事業者名及び代表者名

株式会社フェローテックマテリアルテクノロジーズ
代表取締役 社長 賀 賢漢

2. 本社所在地

東京都中央区日本橋 2-3-4 日本橋プラザビル5階

3. 事業内容

- ・スーパーマシナブルセラミックス「ホトベール」の製造販売
- ・ファインセラミックスの製造販売
- ・CVD-SiC 製品「ADMAP」の製造販売
- ・各種材料の加工販売



4. 環境経営レポート 対象範囲

- ・石川工場 : 石川県白山市漆島町1142番地
- ・石川第2工場: 石川県白山市向島町1101番地
- ・開発センター: 石川県白山市向島町1101番地
- ・関西工場 : 兵庫県尼崎市東向島西之町1番地
- ・岡山工場 : 岡山県玉野市玉原3丁目16番2号

5. 環境管理責任者、兼窓口担当者連絡先

石川工場、開発センター、石川第2工場: 環境管理責任者 湯上 義弘
連絡先 電話 076-274-9800

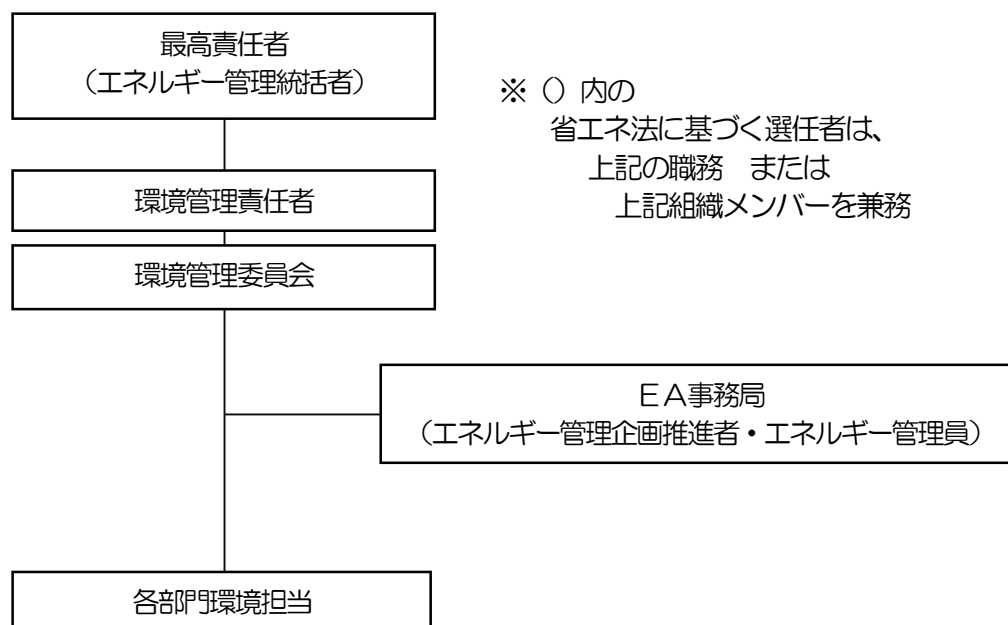
関西工場 : 環境管理責任者 高見 哲也
連絡先 電話 06-6411-7643

岡山工場 : 環境管理責任者 谷口 敏章
連絡先 電話 0863-33-1161

6. 事業所規模

石川工場	・従業員数 ・工場延べ床面積	157 名 (2024 年 12 月現在) 4,662 m ²
石川第2工場	・従業員数 ・工場延べ床面積	53 名 (2024 年 12 月現在) 5,386 m ²
開発センター	・従業員数 ・工場延べ床面積	25 名 (2024 年 12 月現在) 1,600 m ²
関西工場	・従業員数 ・工場延べ床面積	48 名 (2024 年 12 月現在) 4,800 m ²
岡山工場	・従業員数 ・工場延べ床面積	149 名 (2024 年 12 月現在) 7,520 m ²

7. 環境活動組織



Ⅱ. 石川工場活動概要

1. 環境負荷低減 中期（三カ年）目標

（1）2023 年実績に基づき策定した 2024 年～2026 年の環境目標値を以下に示します。

環境負荷		2023 年 実績	2024 年 目標値	2025 年 目標値	2026 年 目標値
売上高目標	2023 年比	-	+36%	+45%	+53%
エネルギー原単位 ※	(kL/M 円)	0.355	0.351 ▲1%	0.347 ▲2%	0.344 ▲3%
二酸化炭素排出量	総量 (t-CO ₂ /年)	2,797	3,065 +9.6%	3,217 +15.0%	3,375 +20.7%
廃棄物等排出量 (ピット汚水以外)	総量 (t/年)	31.0	35.0 +12.9%	36.8 +18.7%	38.6 +24.5%
ピット汚水引取量	総量 (t/年)	249.6	225 ▲9.9%	240 ▲3.8%	255 +2.1%
工場井水使用量 (総汲み上げ量)	総量 (t/年)	1866	2,000 +7.2%	2,020 +8.3%	2,040 +9.3%
含有規制化学物質対応		法規制の動向を把握し、含有規制化学物質の管理に関する要求事項を遵守する。			

※当工場は省エネルギーの進捗状況をみる指標として「エネルギー原単位」を使用します。

原単位算出方法 原油換算エネルギー使用量 (kL) ÷ 石川工場売上高 (M円)

※2024 年度より原単位の算出基準を変更します。2023 年度の原単位 (0.451) は新基準で 0.355 となります。

目標値の下段には 2023 年度実績対比の比率を示します。

○ 2024 年度から 2026 年度にかけて、年平均 45%の売上増加を計画しております。

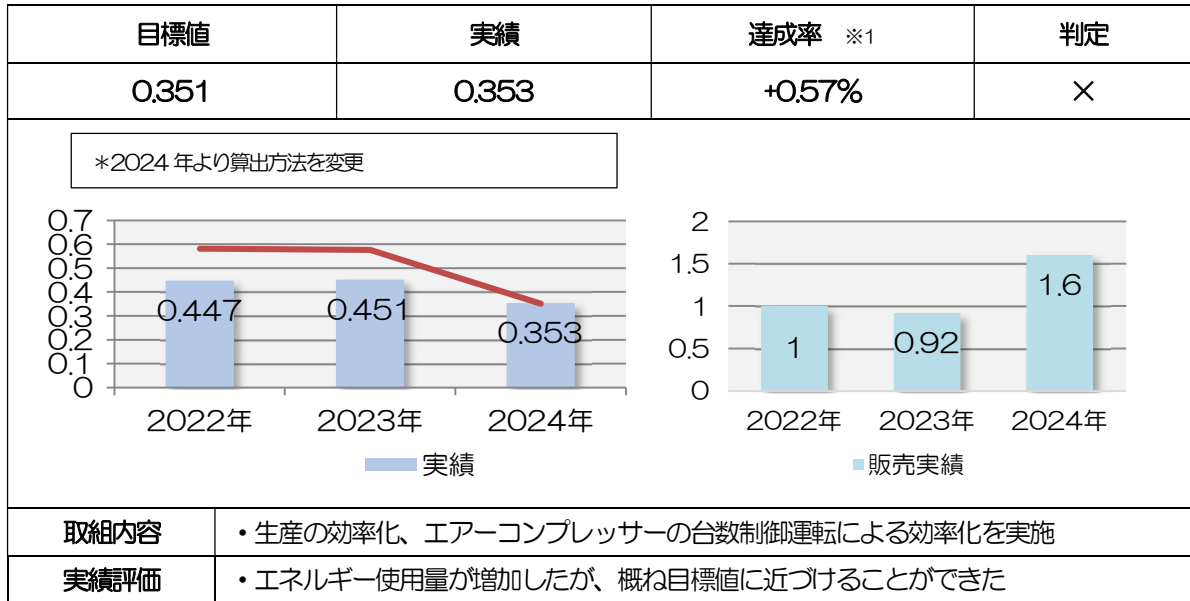
それに合わせて、エネルギー使用量等環境負荷も増加する見通しですが、

その上で 1%以上の削減ができるよう、目標設定をしております。

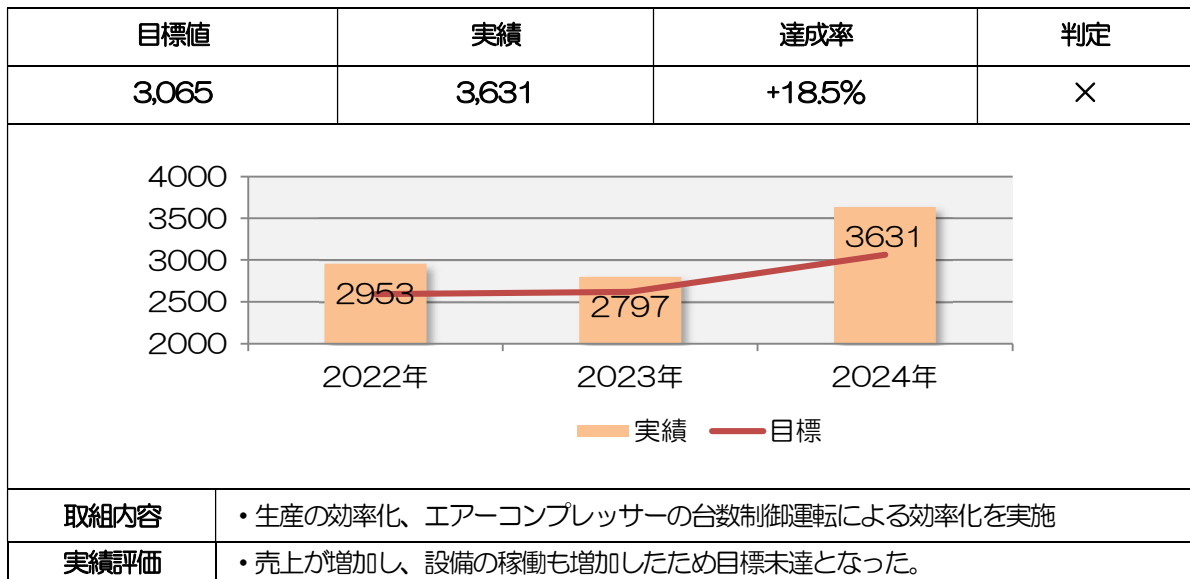
○ 含有規制化学物質対応については、最新の法規制に対応しながら、かつ自社の生産工程で使用する原材料および資材等が法規制に適合しているか調査を実施していきます。

2. 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価

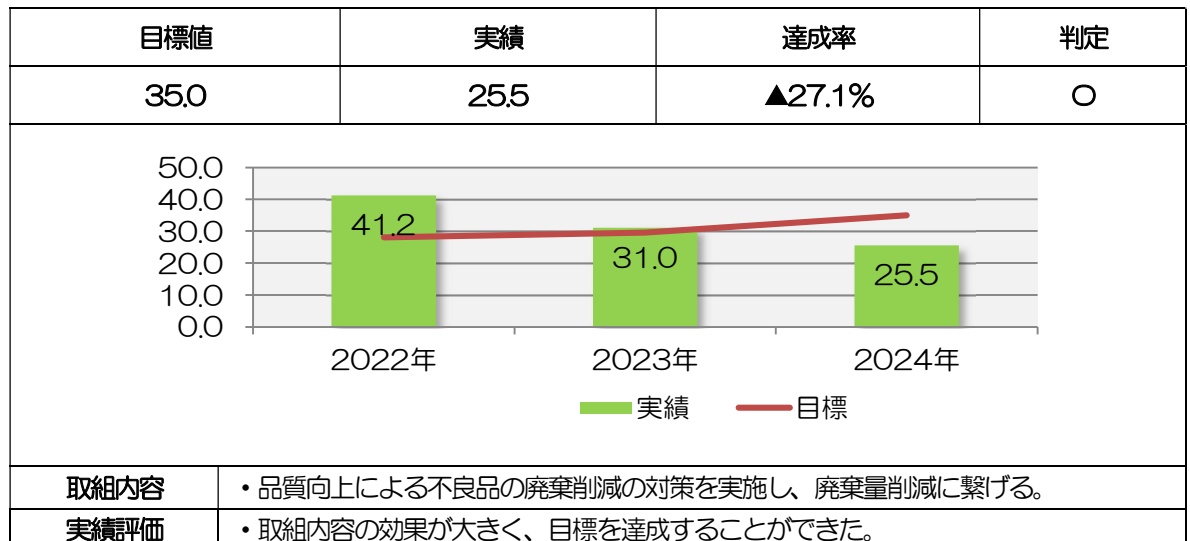
(1) エネルギー原単位 (kL/M¥)



(2) 二酸化炭素排出量 (t-CO2/年) ※2



(3) 廃棄物等排出量 (t/年) ※ピット污水以外、開発センター分を含む



(4) ピット汚水引取り量 (t/年)

目標値	実績	達成率	判定
225	254.9	+13.3%	×

年	実績 (実績)	目標 (目標)
2022年	203.2	225
2023年	249.6	225
2024年	254.9	225

取組内容	・装置洗浄工程の見直し、作業回数削減に取り組んだ
実績評価	・目標は未達となったが、最小限度に抑えることができた。

(5) 工場井水使用量 (t/年)

目標値	実績	達成率	判定
2,000	1,833	▲8.4%	○

年	実績 (実績)	目標 (目標)
2022年	2,131	2,131
2023年	1,866	2,150
2024年	1,833	2,000

取組内容	・生産量に合わせた冷却水、研削水、洗浄水の入れ替えを実施
実績評価	・目標達成できた。

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

Topic: 売上増加に伴い、エネルギー使用量も増加し、二酸化炭素の排出量も増加したが原単位では、概ね目標値に近づけることができた。
 総量では一部増加している項目もあるが、生産増加に伴うもので必要最小限度の増加でとどめた。

※1 達成率の計算式：

$$\text{達成率} = (\text{本年実績値} - \text{本年目標値}) \div \text{本年目標値} \times 100 (\%)$$

※2 各年毎の増減を同じ条件で比較できるように、電力のCO2 排出係数は2023年度の0.48 (kg-CO2/kWh) に統一して計算しています。
 (2023年以前は排出係数0.457を適用)

3. 環境関連法規等の順守状況

(1) 法令・条例の遵守状況

法律・条例の 名称	法令等の 遵守すべき内容	適用部 署	法令等の適用を受ける 設備、行為の詳細	2024 年度実績	確認日 2025 年 1月22 日
廃棄物処理法	排出事業者の 責務	全職場	・契約書・許可証の 管理、更新 ・マニフェストの交付 ・マニフェスト 使用状況の報告 ・多量排出事業者の 責務 ・廃棄物保管場所の 管理	・契約・許可証の変更なし ・電子マニフェストにて管理 結果：適切に処理された ・情報処理センターで集計・報告 (2022 年度分) ・1,000 t 未満のため報告義務なし 石川工場：280.4 t 開発センター：656.5 t ・分別回収できた	○
石川ふるさと 環境条例 (第6条)	事業者の 役割と責務	全職場	・環境に関する知識の 学習と活用 ・環境負荷削減への 取り組み	・年度計画に基づいて分科会活動 を行い、環境負荷の削減に取り 組んだ	○
下水道法 白山市 公共下水道条例	下水道の整備と 公共用水域の 水質の保全	全職場	・特定施設の設置・届出 ・使用徴収等の届出 (汚水排出：50m³/日以上 または不適当汚水の排出)	・排出量実績 石川工場：5.0t/日 開発センター：11.3 t/日 ・水質調査にてBOD 石川：340 第 2/開発：92mg/L と基準以 下を確認	○
省エネ法	エネルギー使用 の合理化および エネルギー 管理体制の整備	事業者 全体	・エネルギー原単位の 削減 ・特定事業者の責務 (平成22 年指定)	・年度計画に基づいて、環境負荷の 削減に取り組んだ ・2024 年 7 月に定期報告書と 中長期計画書を提出 ・2024 年度、環境管理体制表を 更新し、役割を明確化した	○
フロン排出抑制 法	フロンの漏えい 防止	事業者 全体	・対象設備の点検と 記録の保管	・簡易点検を 4 回、定期点検を 1 回 実施 ・フロンの漏れは無かった	○
化管法（PRTR 制度） 石川ふるさと 環境条例 (第112条)	化学物質による 環境の汚染防止	材料Gr	・ホウ素化合物の 取扱量・移動量の 把握と報告 (取扱量1t/年以上で国・県に 報告)	2024 年 4 月に実績を報告 (2023 年 4 月～2024 年 3 月実績 取扱量1842kg 移動量1289kg)	○
大気汚染防止法 石川ふるさと 環境条例 (第81条)	排出ガス基準 の遵守	材料Gr	・ばい煙発生施設 使用状況報告 (対象設備：焼成炉)	2024 年 8 月に年間稼働時間 (2023 年度分) を報告	○
労働安全衛生法 (第65条)	作業環境測定と 結果の記録	材料Gr 加工Gr	・粉塵を伴う屋内作業場	作業環境測定を 2 回/年実施	○
騒音規制法	生活環境の保全	事業者	・第 4 種区域での騒音 規制	2024 年 3 月と 6 月に騒音測定 を実施 基準値内であることを確認	○

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：未達

(2) 違反・訴訟の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。

(3) 協定・努力義務状況

協定の名称	協定等の遵守すべき内容	適用箇所	協定等の適用を受ける設備、行為の詳細	2024 年度実績	確認日 2025 年 1月22日
製品含有規制 化学物質管理	RoHS2 指令に基づき製品への環境規制物質の使用禁止	全職場	・製造原料（ホトベール、Ⅱ、ⅡS）、加工工程（研削油）および梱包資材の含有規制物質の調査	・9月に調査を実施 ・サプライヤーの工程変更がないことと、納入品の結果より含有なしと判断	○
グリーン購入	環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入	全職場	積極的に環境ラベル品を購入し、グリーン購入の推進を図る	環境ラベル品の購入を推進した	○

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：未達

4. 2025 年 環境経営目標および環境経営計画

課題	目標	目標の補足	実行項目	担当	計画
エネルギー 原単位削減 (kL/M円)	0.347	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA 事務局 環境分科会	エネルギー指標を活用して、各課での生産効率化を図り、エネルギー使用量の削減を推進する →石川工場本棟屋根に遮断塗料施工と照明フルLED化の効果確認
二酸化炭素 削減 (t-CO2/年)	3217	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	実績トレース 省エネ活動	各職場 環境分科会	エネルギー指標を活用して、各課での生産効率化を図り、エネルギー使用量の削減を推進する →効率化による設備稼働時間の短縮等
産業廃棄物 削減 リサイクル率向上 (t/年)	36.8	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	実績トレース 3Rの推進	各職場 環境分科会	- 各職場にて削減目標の設定と管理を行い、分科会でトレース、評価及び支援を行う - 社内でのリユースを積極的に行う
ピット汚水 引取量 (t/年)	240	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	井水汲み上げ量 監視 排水量算出と監視	各職場 環境分科会	- 日々の汲み上げ量（工場と事務所）監視体制を継続し、異常の早期発見と対応に努める - ピット放流経路を調査し、汚水では無いピット放流を防止する。
工場井水 使用量 (t/年)	2,020	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	井水汲み上げ量 監視 排水量算出と監視	各職場 環境分科会	- 日々の汲み上げ量（工場と事務所）監視体制を継続し、異常の早期発見と対応に努める - 生産量に合わせた研削水、洗浄水の入替えを実施する。
法令・含有規制化学物質 管理の遵守	適時対応	—	法令・協定の台帳登録と遵守状況確認 顧客要求への対応	EA 事務局 各職場	- 法規制の動向の把握と台帳化を行い、コンプライアンスの徹底に取り組む - 顧客からの含有規制化学物質に関する情報の共有化を行い、顧客の要求事項へ迅速に対応する
内部環境監査の実施	11月に実施予定	—	被監査部門の環境活動の確認	EA 事務局 環境分科会	- 部門での環境活動が適正に機能し、維持できているか確認する - 監査員の育成に取り組む

※エネルギー原単位は、石川工場全体の省エネルギーの進捗状況を見る指標として使用します。

※その他の課題については、各職場が具体的な活動を行うための目標として設定しています。

Ⅲ. 石川第2工場・開発センター活動概要

1. 環境負荷低減 中期（三ヵ年）目標

(1) 2023 年実績に基づき策定した 2024 年～2026 年の環境目標値を以下に示します。

環境負荷		2023 年	2024 年	2025 年	2026 年
		実績	目標値		
売上高目標	2023 年比	-	+36%	+45%	+53%
エネルギー原単位※	(kL/M 円)	0.178	0.176 ▲1%	0.174 ▲2%	0.172 ▲3%
二酸化炭素排出量	総量 (t-CO ₂ /年)	1,379	1,570 +13.4%	1,648 +19.1%	1,729 +24.9%
廃棄物等排出量 (ピット污水以外)	総量 (t/年)	12.9	19.2 +48.8%	20.2 +56.6%	21.2 +64.3%
ピット污水引取量	総量 (t/年)	538.9	578 +7.3%	623 +15.6%	668 +24%
上水使用量	総量 (t/年)	3,103	3,600 +16%	3,780 +21.8%	3,969 +27.9%
含有規制化学物質対応		法規制の動向を把握し、含有規制化学物質の管理に関する要求事項を遵守する。			

目標値の下段には 2023 年度実績対比の比率を示します。

- 他工場 3 ヲ年計画の基準年と合わせるため、2023 年度実績で再設定しております。
- 開発センターの売上については市況に左右される要素が強いため、目標は設定しておりません。

2022 年 12 月石川第 2 工場が稼働し、生産が開始された。今後、生産工程の増加により環境負荷の増減が大きくなる可能性がある。

2. 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価

(1) エネルギー原単位 (kL/M¥)

目標値	実績	達成率 ※1	判定
0.176	0.143	▲18.8%	○

2024 年より算出方法を変更

Year	Actual (実績)	Target (目標)
2022年	0.818	0.818
2023年	0.833	0.833
2024年	0.143	0.176

取組内容	・工場負荷の把握、空調設備の無駄を把握し、効率化を進めた。
実績評価	・目標は達成。効率的な生産も原単位改善に寄与している。

(2) 二酸化炭素排出量 (t-CO2/年) ※2

目標値	実績	達成率	判定
1,570	1,494	▲4.8%	○

Year	Actual (実績)	Target (目標)
2022年	651	1,570
2023年	1,384	1,570
2024年	1,494	1,570

取組内容	・電力使用量の把握と監視を行い、省エネの啓発活動を実施した。
実績評価	・目標を達成することができた。

(3) 廃棄物等排出量 (t/年) ※ピット污水以外

目標値	実績	達成率	判定
19.2	19.7	+2.6%	×

Year	Actual (実績)	Target (目標)
2022年	0	19.2
2023年	0	19.2
2024年	19.7	19.2

取組内容	・2024 年より第 2 工場での廃棄物の取扱いを開始。分別の徹底を行う。
実績評価	・目標未達となったが、最小限度におさえることができた。

(4) ピット汚水引取量 (t/年)

目標値	実績	達成率	判定
578	636.8	+102%	×

年	実績 (t/年)	目標 (t/年)
2022年	202.1	-
2023年	538.9	-
2024年	636.8	578

取組内容	・クリーンルームでの排出量対策の実施
実績評価	・第2工場では全体的に生産量が増加したため、排水も増加した。

(5) 上水使用量 (t/年)

目標値	実績	達成率	判定
3,600	4,125	+14.6%	×

年	実績 (t/年)	目標 (t/年)
2022年	1,257	-
2023年	3,103	-
2024年	4,125	3,600

取組内容	・生産設備の増加と生産対応による使用量の監視。
実績評価	・生産および生産ラインの洗浄などで水の使用が増加した。

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

Topic:2024年度は本格的に生産が稼働した。当初予想よりも生産量が増加し、管理項目が未達となった。

※1 達成率の計算式：

達成率 = (本年実績値 - 本年目標値) ÷ 本年目標値 × 100 (%)

※2 各年毎の増減を同じ条件で比較できるように、電力のCO2排出係数は2023年度の0.48 (kg-CO2/kWh) に統一して計算しています。
(2023年以前は排出係数0.457を適用)

3. 2025 年 環境経営目標および環境経営計画

課題	目標	目標の補足	実行項目	担当	計画
エネルギー 原単位削減 (kL/M円)	0.174	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA 事務局 環境分科会	- エネルギー指標を活用して、各課での生産効率化を図り、エネルギー使用量の削減を推進する - 太陽光発電の効果を有効利用
二酸化炭素 削減 (t-CO2/年)	1648	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	実績トレース 省エネ活動	各職場 環境分科会	- エネルギー指標を活用して、各課での生産効率化を図り、エネルギー使用量の削減を推進する - 太陽光発電の効果を有効利用
産業廃棄物 削減 リサイクル率向上 (t/年)	20.2	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	実績トレース 3R の推進	各職場 環境分科会	- 各職場にて削減目標の設定と管理を行い、分科会でトレース、評価及び支援を行う - 社内でのリユースを積極的に行う
ピット汚水 引取量 (t/年)	623	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	上水使用量 監視	各職場 環境分科会	- 月々の使用量を監視し、異常の早期発見と対応に努める。 - ピット放流経路を調査し、汚水では無いピット放流を防止する。
上水使用量 (t/年)	3780	2023 年実績 による 3 カ年 計画より	上水使用量 監視	各職場 環境分科会	- 月々の使用量を監視し、異常の早期発見と対応に努める。 - 設備洗浄時の節水対策を実施する。

※エネルギー原単位は、第2工場・開発センター全体の省エネルギーの進捗状況を見る指標として使用します。

※含有規制化学物質、環境関連法規等は石川工場と統合して管理しています。

IV. 関西工場活動概要

1. 環境負荷低減 中期（三カ年）目標

(1) 2023 年実績に基づき策定した 2024 年～2026 年の環境目標値を以下に示します。

環境負荷		2023 年	2024 年	2025 年	2026 年
		実績	目標値		
エネルギー原単位 ※1	(kL/M 円)	0.103	0.196	0.194 ▲1%	0.192 ▲2%
二酸化炭素原単位 ※2	(t-CO ₂ /M 円)	0.154	0.323	0.320 ▲1%	0.317 ▲2%
産業廃棄物排出量	総量 (t/年)	81.4	52.4	51.9 ▲1%	51.4 ▲2%
ピット排水量	総量 (m ³ /年)	2,908	2,068	2,047 ▲1%	2,026 ▲2%
工場用水使用量 (工水・セパ・上水使用量)	総量 (m ³ /年)	5,735	4,498	4,453 ▲1%	4,408 ▲2%
含有規制化学物質対応		法規制の動向を把握し、含有規制化学物質の管理に関する要求事項を遵守する。			

※1 当工場は省エネルギーの進捗状況をみる指標として「エネルギー原単位」を使用します。

エネルギー原単位算出方法：原油換算エネルギー使用量 (kL) ÷ 関西工場出荷金額 (M円)

※2 当工場は二酸化炭素削減の進捗状況をみる指標として「二酸化炭素原単位」を使用します。

二酸化炭素原単位算出方法：二酸化炭素排出量 (t-CO₂) ÷ 関西工場出荷金額 (M円)

○ エネルギー原単位の削減目標は、2023 年実績（10m³ 焼成炉の停機）と 2024 年販売計画（10m³ 焼成炉の再稼働）を加味し 2024 年分を設定 2025 年からはそれぞれ前年度実績の▲1%減少を設定しました。

○ 二酸化炭素原単位の削減目標は、2023 年実績（10m³ 焼成炉の停機）と 2024 年販売計画（10m³ 焼成炉の再稼働）を加味し 2024 年分を設定 2025 年からはそれぞれ前年度実績の ▲1%減少を設定しました。

○ 廃棄物等排出量は、2023 年実績より 2024 年分を設定、梱包資材の段ボール化などの活動および不良低減対策効果を考慮し 2025 年からはそれぞれ前年度実績の▲1%減少を設定しました。

○ ピット排水量は、2023 年実績より 2024 年分を設定、節水対策効果を考慮し 2025 年からはそれぞれ前年度実績の▲1%減少を設定しました。

○ 工場用水使用量は、2023 年実績より 2024 年分を設定、節水対策効果を考慮し 2025 年からはそれぞれ前年度実績の▲1%減少を設定しました。

○ 含有規制化学物質対応については、最新の法規制に対応しながら、かつ自社の生産工程で使用される原材料および資材等が法規制に適合しているか調査を実施していきます。

2. 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価

① エネルギー原単位 (kL/M¥)

2024 年目標値	実績	達成率	判定
0.196	0.113	-42.3%	○

年次	実績値 (kL/M¥)
2022年	0.104
2023年	0.103
2024年	0.113

取組内容	・エアーコンプレッサー台数制御の継続と、焼成炉の積載率向上を推進した
実績評価	・売上減の影響と国内生産が徐々に増加していった事により原単位が前年比増となった

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

② 二酸化炭素原単位 (t-CO2/M¥)、年間二酸化炭素排出量 (t-CO2)

2024 年目標値	実績	達成率	判定
0.323	0.200	-44.6%	○

年次	原単位 (t-CO2/M¥)
2022年	0.169
2023年	0.154
2024年	0.2

取組内容	・エアーコンプレッサー台数制御の継続と、焼成炉の積載率向上を推進した
実績評価	・売上減の影響と国内生産が徐々に増加していった事により原単位が前年比増となった

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

③ 産業廃棄物排出量 (t/年) ※セラミックスリサイクル量含む

2024 年目標値	実績	達成率	判定
524	71.3	+36.3%	×

年次	排出量 (t)
2022年	116.6
2023年	81.4
2024年	71.3

取組内容	・廃プラの圧縮投機による体積減の継続、出荷用の梱包箱として再利用にも取り組んだ
実績評価	・売上が前年比減で廃棄量は微減にとどまった、工場移転準備で発生した廃棄品も影響

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

④ピット排水量（m³/年） ※排水（廃液回収）量含む

2024年目標値	実績	達成率	判定
2,068	2,607	+26.1%	×

Year	Volume (m³)
2022年	2,430
2023年	2,908
2024年	2,607

取組内容	・排水量・費用面等の社内教育を行い、排水に対する意識向上に取り組んだ
実績評価	・全員の排水意識の積み上げが、微量だがトータルの削減へとつながった

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

⑤工場用水（工水・セイスイ・上水）使用量（m³/年）

2024年目標値	実績	達成率	判定
4,498	5,211	+15.9%	×

Year	Volume (m³)
2022年	5,110
2023年	5,735
2024年	5,211

取組内容	・可能な限りのバッチ処理量を増やす事で処理数の減を行い、排水量の削減に取り組んだ
実績評価	・節水弁の切替えバッチ処理量の見直し等の取り組みにより微量だが削減につながった

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

※1 達成率の計算式：

$$\text{達成率} = (\text{本年実績値} - \text{本年目標値}) \div \text{本年目標値} \times 100 (\%)$$

※2 各年毎の増減を同じ条件で比較できるように、電力・都市ガスのCO₂排出係数を2023年度関西電力の排出係数0.433kg-CO₂/kWhに統一して計算しています。

3. 環境関連法規等の順守状況

(1) 法令・条例の遵守状況

法律・条例 の名称	法令等の 遵守すべき内容	対応部署	法令等の適用を受ける 設備、行為の詳細	2024 年実績	確認日 2025 年 1 月 9 日
産業廃棄物 処理法	排出事業者の 責務	事務局	・契約書・許可証の 管理、更新	・契約・許可証の変更なし	○
			・マニフェストの 交付	・電子マニフェストにて管理 結果：適切に処理された	○
			・マニフェスト 使用状況の報告	・情報処理センターより尼崎市へ 2024 年度実績を報告済 (毎年 6 月)	○
			・多量排出事業者の 責務	・1,000 t 未満のため報告義務な し (2024 年度総量 95.8 t) (2024 年度実績 再資源化 量除く 71.3 t)	○
			・廃棄物保管場所の 管理	・容器/コンテナ BOX による 保管を継続中	○
大気汚染 防止法	事業者の 役割と責務	焼成職場	・ばい煙測定 (NOX) 6号 s (2回/年) 7号 s (2回/年) 8号 s (8月より 再稼働)	・日本製鉄(株)協定値 135ppm ・法令・条例協定値 180ppm すべてのバッチにおいて協定値 以下での管理を確認	○
水質汚濁 防止法	事業者の役割と 責務	全職場	・日本製鉄(株)との 協定値 pH : 1~8 COD : 30mg/L SS : 25mg/L n-ヘキサン : 16.5mg/L 分析 1 回/月	・当社は協定値以下の管理に努める (排水処理装置導入で精度向上) ※最終処理は日本製鉄(株)の 総排水処理場にて対応し 法・条例協定値以下に処理 2024 年 9 月 10 日より自社での 産廃処理開始	○
騒音規制法 振動規制法	事業者の役割と 責務	生力工、 焼成職場	・80m 地点で 朝夕 70db 以下 昼間 70db 以下 夜間 60db 以下	・当社は協定値以下の管理に努め る ・苦情が発生した場合は速やかに 対処する	○
省エネ法 温対法	エネルギー 使用の合理化 および エネルギー 管理体制の 整備	事業者 全体	・エネルギー原単位 の削減 ・特定事業者の責務 (2010年に指定)	・年度計画に基づいて、環境負荷 の削減に取り組んだ	○
フロン排出 抑制法	フロンの 漏えい防止	事業者 全体	・対象設備の点検と 記録の保管 簡易点検 4 回/年 定期点検 3 年毎	・簡易点検を実施 フロンの漏れは無かった 定期点検は 2024 年 7 月実施	○
PRTR法	化学物質による 環境の汚染防止	全職場	・規制対象物質の 取り扱いなし	・有害物質使用量削減を推進 (製品の利用制限の取り組み)	○

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：未達

(2) 違反・訴訟の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。

(3) 協定・努力義務状況

協定の名称	協定等の遵守すべき内容	適用部署	協定等の適用を受ける設備、行為の詳細	2024 度実績	確認日 2025年 1月9日
製品含有規制 化学物質管理	コンプライアンス 環境規制への対応 有害物質使用量 削減 PRTR 該当物質 製品の使用抑制	全職場	・製造原料および生産に関わるすべての購入品において含有規制物質有無の事前確認	・関西工場において現状は規制物質の使用は有りません	○

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：未達

4. 2025 年 環境経営目標と環境経営計画

課題	目標	目標の補足	実行項目	担当	計画
エネルギー 原単位削減 (kL/M円)	0.194	2024 年実績に よる 3 カ年計画 より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA 事務局 環境委員会	・炉の運用および積載技術の向上によりエネルギー効率を高める。 ・空調機の適正温度管理、フィルター清掃による無駄なエネルギーロスの削減の実施。
二酸化炭素 原単位削減 (t-CO2/M円)	0.320	2024 年実績に よる 3 カ年計画 より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA 事務局 環境委員会	・炉の運用および積載技術の向上によりエネルギー効率を高める。 ・空調機の適正温度管理、フィルター清掃による無駄なエネルギーロスの削減の実施。
産業廃棄物 削減 リサイクル率向上 (t/年)	51.9	2024 年実績に よる 3 カ年計画 より	実績トレース 3R の推進	各職場 EA 事務局 環境委員会	・生産量の増加に伴い、達成率の困難が予想されるが、セラミックス屑・集塵粉の回収方法の更なる改善を行い、廃棄屑・粉になる物をリサイクル行きに回せるよう努め、削減に寄与する。
ピット排水量 (m3/年)	2047	2024 年実績に よる 3 カ年計画 より	ピット排水 送水量の 監視	各職場 EA 事務局 環境委員会	・水の使用量を監視し、日々節水に取り組む。 ・洗浄時の処理量（特にリンスの際）を極力集約、バッチ回数をへらすことにより水使用量（排水量含む）の低減を図る ・バルブや水洗金具を節水タイプに変更し低減を図る。
工場用水 使用量 (m3/年)	4,453	2024 年実績に よる 3 カ年計画 より	工業用水・セリイ・ 上水使用量の 監視	各職場 EA 事務局 環境委員会	・水の使用量を監視し、日々節水に取り組む。 ・洗浄時の処理量（特にリンスの際）を極力集約、バッチ回数をへらすことにより水使用量（排水量含む）の低減を図る ・バルブや水洗金具を節水タイプに変更し低減を図る。
法令・含有規 制化学物質 管理の遵守	法令違反なし	—	法令・協定の台 帳登録と遵守状 況確認 顧客要求への対 応	各職場 EA 事務局 環境委員会	・法規制の動向の把握と台帳化を行いコンプライアンスの徹底に取り組む。

※エネルギー原単位・二酸化炭素原単位は、関西工場全体の省エネルギーの進捗状況をみる指標として使用します。

※その他の課題については、各職場が具体的な活動を行うための目標として設定しています。

V. 岡山工場活動概要

1. 環境負荷低減 中期（三カ年）目標

2023 年実績に基づき策定した 2024 年～2026 年の環境目標値を以下に示します。

環境負荷		2023 年	2024 年	2025 年	2026 年
		実績	目標値		
エネルギー原単位 ※1	(kL/社内管理指標)	0.413	0.409 ▲1%	0.405 ▲2%	0.401 ▲3%
二酸化炭素排出量原単位 ※2	(CO2/社内管理指標)	967	958 ▲1%	948 ▲2%	938 ▲3%
水道使用量原単位 ※2	(m ³ /社内管理指標)	0.566	0.560 ▲1%	0.555 ▲2%	0.549 ▲3%
汚泥廃棄物排出量原単位 ※2	(t/社内管理指標)	0.0325	0.0322 ▲1%	0.0318 ▲2%	0.0315 ▲3%
含有規制化学物質対応		法令違反なし			

※1：当工場は省エネルギーの進捗状況をみる指標として「エネルギー原単位」を使用します。

原単位算出方法 原油換算エネルギー使用量 (kL) ÷ 社内管理指標

※2：当工場は各環境目標指標に「原単位」を使用します。

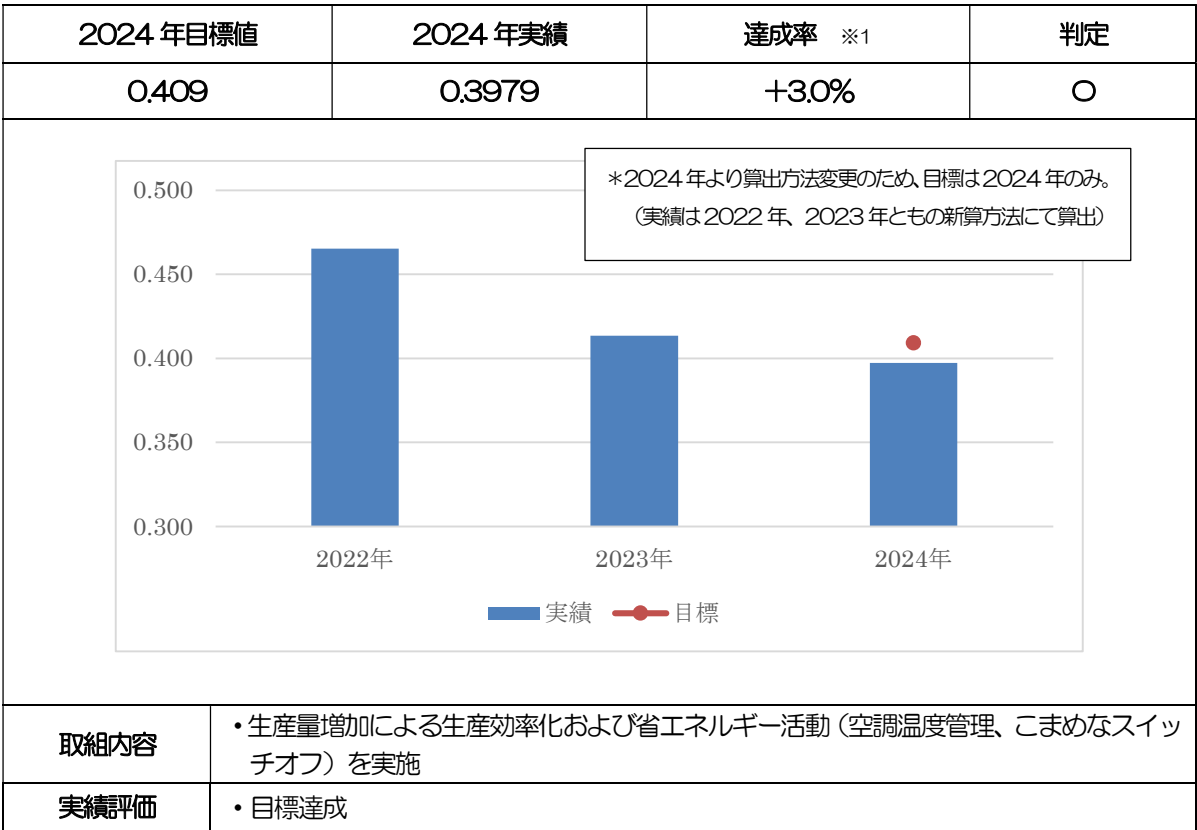
原単位算出方法 各環境データ ÷ 社内管理指標

目標値の下段には 2023 年度実績対比の比率を示します。

- 2024 年度から 2026 年度にかけて生産量増加を計画しており、エネルギー使用量等環境負荷も増加する見通しですが、その上で 1%以上の削減ができるよう、目標設定をしています。
- 含有規制化学物質対応については、定期的に分析調査を実施しています。また、最新の法規制には都度対応しています。
- 含有規制化学物質対応については、最新の法規制に対応しながら、かつ自社の生産工程で使用する原材料および資材等が法規制に適合しているか調査を実施していきます。

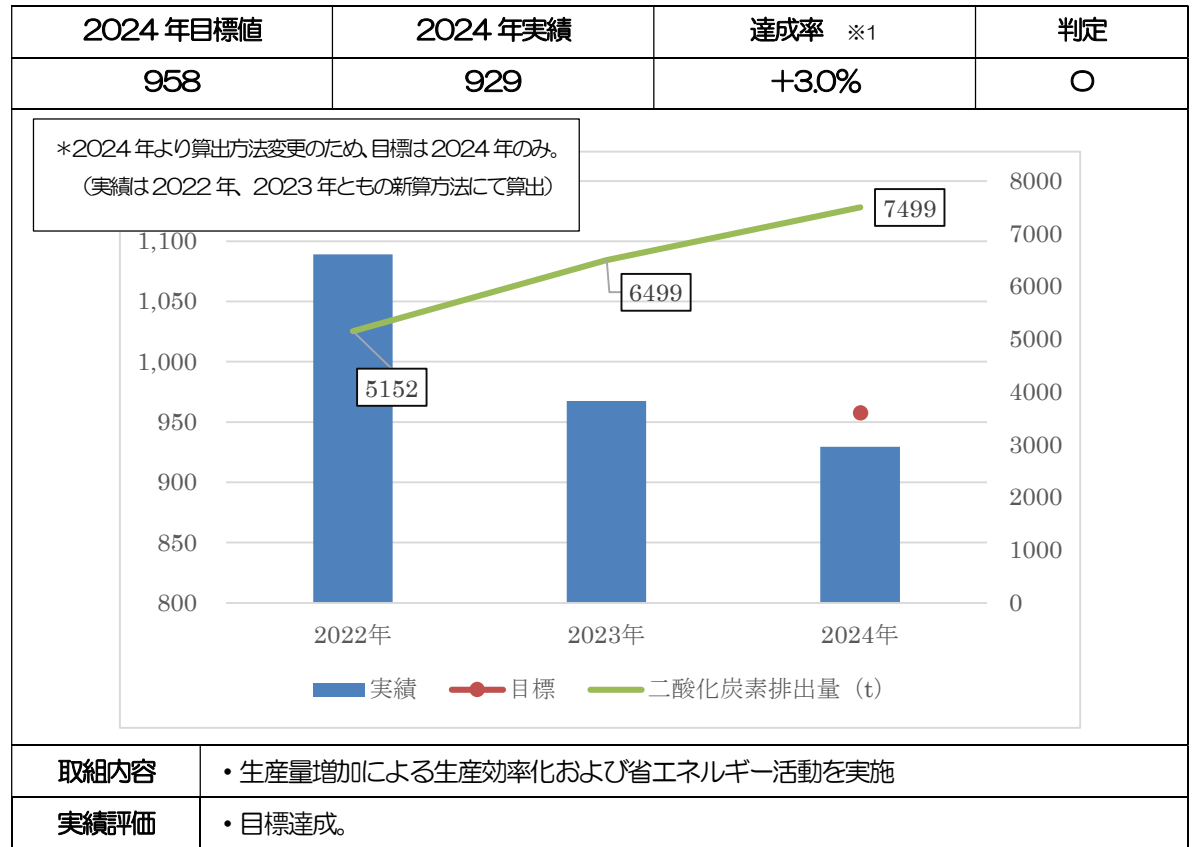
2. 2024 年 環境経営目標と取組内容及び実績評価

(1) エネルギー原単位 (kL/社内管理指標)



○：達成、△：達成(改善事項あり)、×：実績未達

(2) 二酸化炭素排出量 (CO2/社内管理指標)



○：達成、△：達成(改善事項あり)、×：実績未達

(3) 水使用量原単位（月平均m³/ 社内管理指標）

2024 年目標値	2024 年実績	達成率 ※1	判定
0.560	0.558	+0.3%	○

*2024 年より算出方法変更のため、目標は2024 年のみ。
(実績は2022 年、2023 年ともの新算方法にて算出)

取組内容	・生産量増加による生産効率化および省エネルギー活動（漏水対策・節水）を実施
実績評価	・生産量が増加する中、取り組みにより目標達成。

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

(4) 汚泥廃棄物等排出量（年間 t /社内管理指標）

2024 年目標値	2024 年実績	達成率 ※1	判定
0.0322	(測定データ不良)	—	—

*2024 年より算出方法変更のため、目標は2024 年のみ。
(実績は2022 年、2023 年ともの新算方法にて算出)

設備不良により2024 年データなし

取組内容	排水処理設備工事に伴う設備不良により計測データ不良。
実績評価	

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：実績未達

※1 達成率の計算式：

$$\text{達成率} = (\text{本年実績値} - \text{本年目標値}) \div \text{本年目標値} \times 100 (\%)$$

※2 各年毎の増減を同じ条件で比較できるように、電力のCO₂ 排出係数は2019 年度の排出係数 0.585 に統一して計算しています。
2025 年度の実績から排出係数 0.520 を適用します。

(5) 含有規制化学物質対応

法令違反なし。

3. 環境関連法規等の順守状況

(1) 法令・条例の遵守状況

法律・条例 の名称	法令等の 遵守すべき内容	対応部署	法令等の適用を受ける 設備、行為の詳細	2024 年実績	確認日 2025 年 1月31 日
廃棄物処理法	排出事業者の 責務	全職場	・契約書・許可証の 管理、更新	・契約・許可証の変更なし	○
			・マニフェストの交付	・管理結果：適切に処理された	○
			・マニフェスト 使用状況の報告	・報告書提出済（2023 年実績）	○
			・多量排出事業者の 責務	・1,000 t 未満のため報告義務なし	○
			・廃棄物保管場所の 管理	・適切に分別表示を行い、管理されて いることを確認した。	○
大気汚染 防止法	事業者の 役割と責務	製造部	HC 1 : 33mg/m ³ N H2 : 1.5%	・外部機関にて測定を行い、基準 内であることを確認した。	○
玉野市下水 道法	事業者の役割と 責務	製造部	pH : 5.5~8.5 BOD : 600mg/ℓ/5 日 SS : 600mg/ℓ 油分 : 5mg/ℓ りん : 32mg/ℓ 窒素 : 240mg/ℓ フッ素 : 15mg/ℓ NaCl : 30,000mg/ℓ	・外部機関にて測定を行い、基準 内であることを確認した。	○
省エネ法 温対法	エネルギー使用 の合理化および エネルギー 管理体制の整備	事業者 全体	・エネルギー原単位の 削減 ・特定事業者の責務	・生産性向上、各種環境負荷低減に 取り組んだ。	○
フロン排出 抑制法	フロンの 漏えい防止	事業者 全体	・対象設備の点検と 記録の保管 簡易点検 4 回/年 定期点検 1 回/3 年	・簡易点検および定期点検を実施 フロンの漏れは無かった。	○
消防法	事業者の責務 (消防)	全職場	・消防設備点検 (年 2 回)	・点検状況を確認し、適切に点検 が行われていたことを確認した。	○
毒物・劇物 取締法	事業者の責務 (毒物・劇物の 管理)	該当職場	・保管量管理 ・施錠管理	・適切に管理されていることを確 認した。	○
PRTR法	化学物質による 環境の汚染防止	製造部	・規制対象物質あり	・適切に管理、把握されているこ とを確認した。取扱量は少量のた め、報告義務なし。継続して管 理、把握を実施する。	○
高圧ガス保 安法	事業者の責務 (高圧ガス)	製造部	・設備点検	・設備点検が実施されていること を確認した。	○
工場立地法	事業者の責務	事業者 全体	・敷地面積の 5%以上 (玉野市工業地域)	・5%以上の緑地面積を確認し た。	○

○：達成、△：達成（改善事項あり）、×：未達

(2) 違反・訴訟の有無

2025年1月31日現在、環境関連法規への違反・訴訟はありません。

(3) 組織に影響する法規制動向

2025年1月31日現在、上記を含む環境関連法規制について岡山工場に影響する法規制の制定、改定等は認められなかった。

4. 2025年 環境経営目標と環境経営計画

課題	目標	目標の補足	実行項目	担当	計画
エネルギー 原単位削減 (kL/社内管理指標)	0.405	2023年 実績による 3カ年計画 より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA事務局	- 各課で生産効率化を図り、エネルギー使用量の削減を推進する - 場内各所において、省エネ活動を実践する - エネルギー指標の掲示（可視化）を行う
二酸化炭素排出 量原単位削減 (CO ₂ /社内管理指標)	948	2023年 実績による 3カ年計画 より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA事務局 環境委員会	- 各課で生産効率化を図り、エネルギー使用量の削減を推進する - 設備入替時などに省エネタイプの機器を選定していく（例：蛍光灯のLED化）
水道使用量原単 位削減 (m ³ /社内管理指標)	0.555	2023年 実績による 3カ年計画 より	実績トレース 省エネ活動	各職場 EA事務局	- 日常の排出量を監視 - 設備の点検を適切に行うことにより、効率的な排水処理を推進する - 電子マニユフェストの運用継続
汚泥廃棄物排出 量原単位削減 (t/社内管理指標)	0.0318	2023年 実績による 3カ年計画 より	実績トレース	各職場 EA事務局	- 上下水道の使用量を監視し、日常的に使用量削減を推進する - 異常値を発見した場合、原因を調査し、対処する。
法令・含有規制 化学物質管理の 遵守	法令違反 なし	—	法令・協定の 台帳登録と遵 守状況確認 顧客要求への 対応	各職場 EA事務局	法規制の動向の把握を行い、コンプライアンスの徹底に取り組む。

※エネルギー原単位は、岡山工場全体の省エネルギーの進捗状況を見る指標として使用します。

※その他の課題については、各職場が具体的な活動を行うための目標として設定しています。

VI.代表者による全体見直しの記録

1. 見直しのための情報

環境マネジメントシステム見直しのため、下記の情報を参考にしました。

- 環境関連法規の遵守状況
- 環境目標の達成状況、環境活動計画の実施状況及びその評価結果
- 問題点の是正処置、予防処置の結果
- 外部からの苦情等の受付結果
- 環境に関連する取引先からの「グリーン調達」情報

2. エコアクション21全体の取組状況の評価

エコアクション21事務局による認証の更新審査、及び社内での内部監査の結果等により、環境マネジメントシステムは機能し、エコアクション21の要求事項を満たしていると判断しました。

3. 見直しの必要性と実施の指示

《石川工場》

計画、活動、モニターが実行され、成果が出ていることを確認しました。

第一工場及び第二工場の区分、運用の見直しによるデータ変動に関して、しっかりと追跡をしてください。

2025年度には、危険物や薬剤使用の増加に対する管理も強化してください。

《関西工場》

計画、活動、モニターが実行され、成果が出ていることを確認しました。

2024年度は廃液処理に関して大きな変更点があった。従来日本製鉄株の所内集中廃液処置場に送水していたが、各事業所で完結させる必要が生じ、産廃としての処理に踏み切った。排水ピットの貯蔵量/予備タンク設置/汲み取り回数/雨水流入対策工事など運用ルール作りを含め実行に移すことができた。2025年度は工場を石川地区へ移転、現工場は撤退（日本製鉄へ返還）となり大きな変化をもたらす。特に廃棄処理、官公庁届出の廃止届など法にかかわる手続きも多く、漏れなき様チェックしあい実施してください。

《岡山工場》

計画、活動、モニターが実行され、成果が出ていることを確認しました。

各原単位が目標が達成され、成果がでていることを確認しました。生産量増加に伴う生産効率化が大きく寄与し、エネルギー原単位、二酸化炭素排出原単位及び水使用量原単位の改善を確認しました。一方、汚泥廃棄物排出量については、設備不良により正確な計測データが得られず、設備復旧及び管理強化をお願いします。また生産量は2025年度も前年と同程度の高い生産量を計画しており、引き続き活動を継続させ、次年目標達成に向けた取り組みをおねがいします。なお汚泥廃棄物排出量について継続的な追跡・監視を行ってください。

という、指示を各工場の代表者より頂きました。

4. 見直し実施事項

EA事務局が主動して、各事業所、工場での省エネ活動、環境活動の情報を収集、共有し、目標を達成できるように活動を推進していきます

VII. 環境活動事例

2024 年に実施した環境活動状況の一部を紹介します。

1. 石川工場・石川第2工場・開発センター環境活動

「環境分科会」を設置して工場全体の環境活動マスタープラン（年度計画）を策定し、各職場（サークル）への周知と、取組支援を行います。

(1) 環境負荷削減活動

① 定例会の実施

各サークルが実施する環境活動状況の進捗を確認して必要に応じて助言・教育を行っています。



② 改善活動事例

太陽光パネルを工場屋根に設置
パネル容量 約 400kW

2024 年実績
発電量：439,821kWh
自給率：13%



サイネージで発電状況を掲載してます



③ 改善活動事例

石川工場建屋の屋根に遮熱塗料を施工。
工事前後の室温抑制効果は8℃程度となり、エアコンの負荷低減に繋がった。
副次的効果として、オペレータの熱中症予防にもなり、作業環境も改善した。

塗装前	外気温	30℃	室温	28℃
塗装後	外気温	35℃	室温	25℃



(2) 社内研修会の実施

新入社員や従業員に対して、環境に関する社内講習会を例年は実施しておりますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、集合しての教育は中止とし、オンライン研修としました。

- ① 「石川工場の環境負荷と関係法令」
内 容：エネルギー使用量・原単位・関係法令について
- ② 「含有規制化学物質管理について」
内 容：グリーン調達、含有規制化学物質管理について

●オンラインでの講習は場所、時間を選ばず受講者の好きな場所で受講できるので、活用すれば便利なものだと感じました。

(3) 地域環境維持活動

① 工業団地内清掃への参加

年2回実施される、松任先端技術団地内の一斉清掃に参加しました。



② 緊急事態対応訓練（ピット廃液オーバーフロー時の対応）

新入社員（新卒・中途）対象

ピット廃液（汚水）が流出しそうなどの対応を訓練しています。

●新型コロナウイルス感染症対策のため、制限を設けて実施しております。

今後は感染症対策を講じたうえで、環境活動を実施できるよう取り組みます。

③ 団体献血への参加

年2回実施される、松任先端技術団地内の団体献血に参加しました。



2. 関西工場環境活動

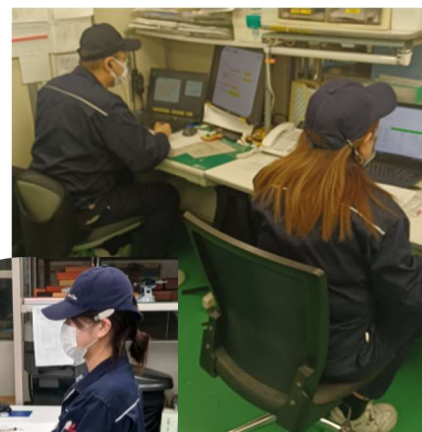
(1) 環境管理委員会

関西工場では、工場長から現場担当者に至る環境担当者全員が月一回環境管理委員会を開催しています。

※2024 年も引き続き感染予防の観点から
継続して Web 会議システムにて実施しています。

<議事内容>

- 「環境計画」に基づき実施される、
環境活動の実施状況と結果の確認
- ・環境関連行事の実施状況
 - ・定期的な水質・排ガス管理の報告
 - ・日本製鉄との環境関連の連携紹介
 - ・各職場の取り組み事項結果紹介
 - ・その他、環境に関するトピックス



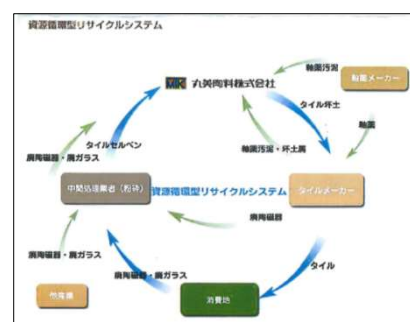
(2) 工場全体での省エネ・省資源活動

- セラミックス粉リサイクルシステム
関西工場からの未使用粉を
サプライヤーに
買い取って頂き、資源循環の
サイクルに組み込んでもらって
います

<2024 年実績>

- 生クデ（セラミックス原料メーカー）→タイルなど
リサイクル量：6.747kg
買取金額：134.940 円

- 集塵粉（セラミックス商社）→外壁塗料など
リサイクル量：17.746kg
買取金額：124.900 円



(3) 各部署の省エネ・省資源活動

- ① 管理部：古紙のリサイクル推進とコピー用紙の使用削減

シュレッダー処理される紙の古紙回収（リサイクル）
転換を進めつつ、コピー用紙使用量削減に
取り組んでいます

<2024 年実績>

目標：36 箱 実績 34 箱（-2 箱）

財務経理ユニット 活動報告

取組内容：コピー用紙の再利用

※コピー用紙の再利用

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）※紙の再利用（シュレッダー処理された紙の回収）

② 製造課：ペーパーレス化による成型日報用紙使用量削減

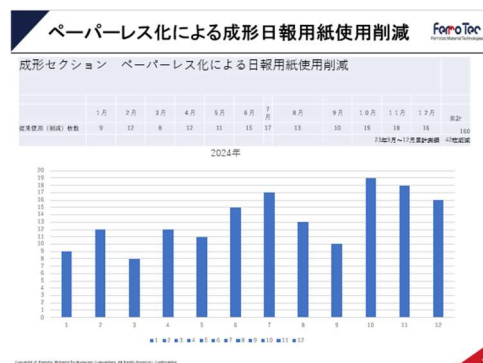
＜紙の使用量削減＞

従来はペーパーに記載

→電子書類に変更し紙の使用量削減に取り組んだ

＜2024 年実績＞

使用時に対し：160 枚の削減

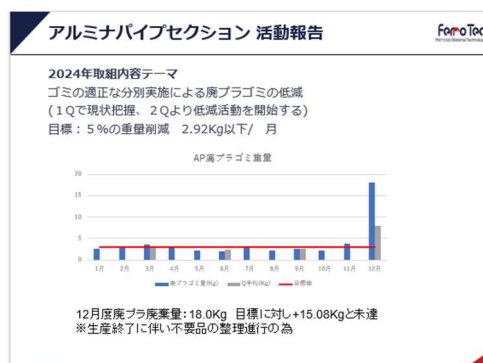


③ 製造課：ゴミの適正な分別による廃プラゴミの低減

排出量の多いプラに着目を置き、職場での適正なプラ廃棄量を確認し、目標値に設定、廃棄毎に重量を測定し廃棄量の削減に取り組んだ

＜2024 年 実績＞

職場閉鎖に伴う不用品の整理が発生した為
+15kg 未達となった

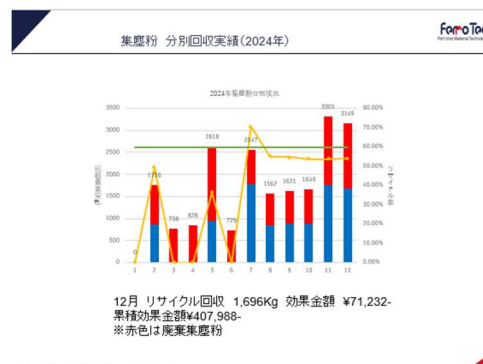


④ 製造課：集塵粉の分別回収（リサイクル）

生加工時に発生する粉体を集塵機が吸い取りフレコンに回収、その回収粉を有価物とし買い取っていただいている

＜2024 年実績＞

回収量： kg9,714/年
効果金額： ¥180,680/年
(収集運搬費計上外)



⑤ 製造課：支柱用目砂 WA60 回収活動

使用した目砂（段積み用）を回収し別の工程（台板セット）時に再利用する取り組みを行った

＜2024 年実績＞

再利用量：kg125,9/年
効果金額： ¥62,195/年



受注・仕様改訂連絡の電子化および
出荷伝票等の両面印刷により、
紙使用の削減に取り組んでいます。

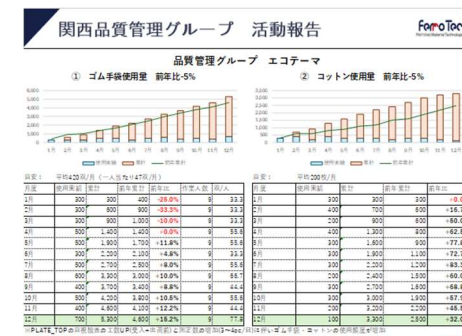
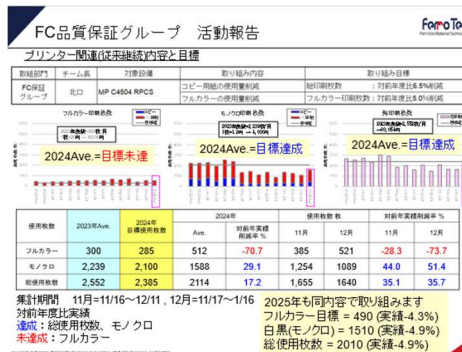
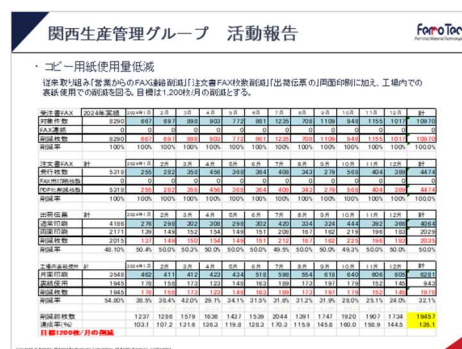
⑦ 品質保証部：コピー用紙・トナーの使用量の削減

＜2024 年実績＞

総印刷枚数	目標：2,385 枚/年
	実績：2,114 枚/年（目標達成）
カラー印刷枚数	目標：285 枚/年
	実績：512 枚/年（目標未達）

品質に影響のない範囲でコットン・
ゴム手袋の使用量を削減し、資源の削減へ
取り組みます。

＜2024 年実績＞
 コットン 3,300 枚（目標未達）
 ゴム手袋 5,300 枚（目標未達）



① 構外美化清掃活動

関西工場は日本製鉄(株)関西製鉄所尼崎地区様の敷地内に立地しており、月に一回行われる美化清掃活動では、共同で県道57号線沿いの通勤路の清掃を行っています。



② 構内清掃活動

毎日の終業前15分間と、1回/2か月毎 午前9時からの10分間を構内清掃時間に定め、工場・事務所の美化に努めています。



(5) 排水ピットの緊急時対応訓練の実施

排水ピット緊急時の対応訓練及び、排水ピットから予備タンクに移送する訓練を担当者間で実施しました。

①概要の説明



②訓練状況



③予備タンク移送訓練



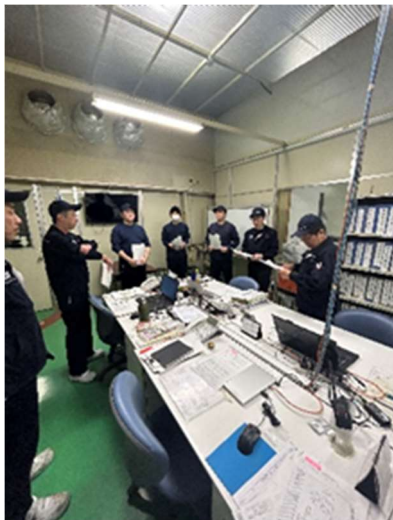
④代表者総括



(6) 排ガスNO_x異常発生時の対応訓練の実施

定期排ガス測定でNO_xに異常値が見られた際の対応訓練を、担当者間で実施しました。

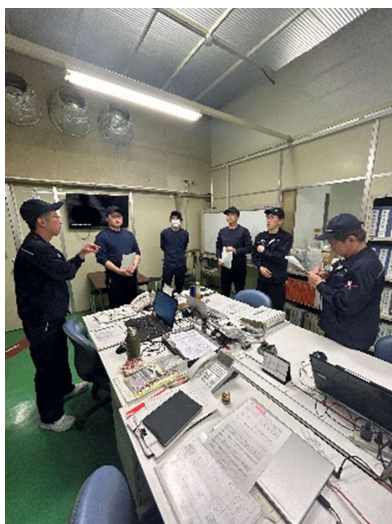
①訓練概要説明



②訓練状況



③代表者総括



3. 岡山工場環境活動

2024 年に実施した環境活動状況の一部を紹介します。

(1) 地域環境維持活動

5月14日および10月9日に地域クリーン作戦へ参加。

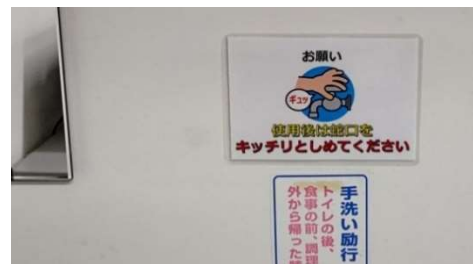


(2) 節水・節電（消し忘れ等）に関する表示

各所にて節水・節電に関する表示を実施した



(食堂・休憩室)



(手洗い場・トイレ)



(3) ユーティリティエリア外灯のLED化

外灯LED化を実施した。



(4) 新設炉計器記録のデジタル化

新設炉の計器記録について、従来の紙（ロール紙）記録でなく、デジタル化（電子記録）を導入。

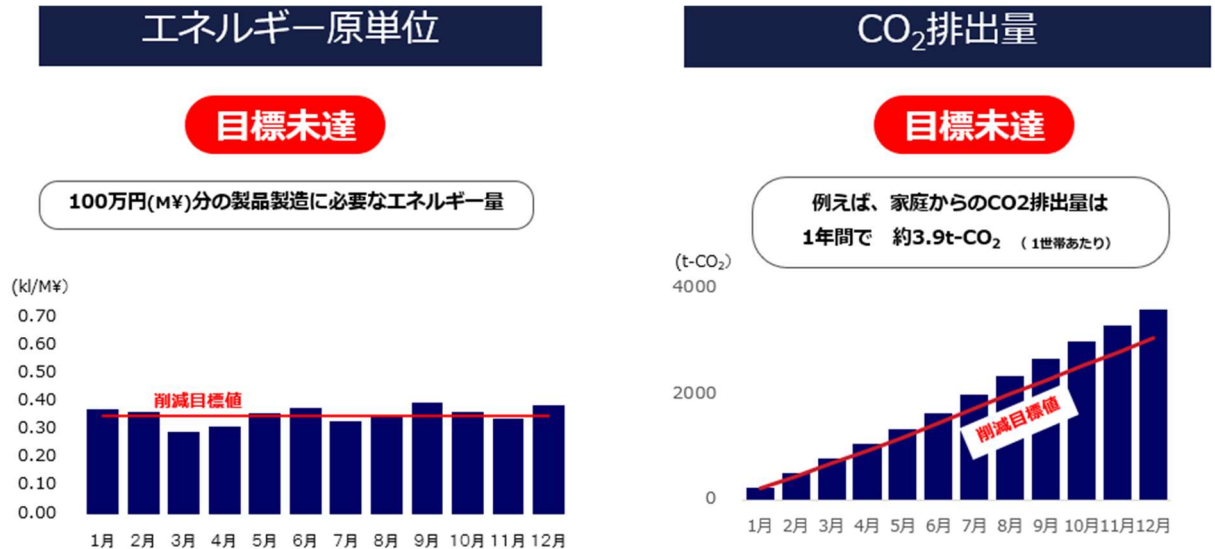


4. 環境負荷データ

2024 年の環境負荷データを以下に示します。
(これらは、C-TPM 活動板に掲示されたものを参照しています。)

石川工場・石川第2工場・開発センター

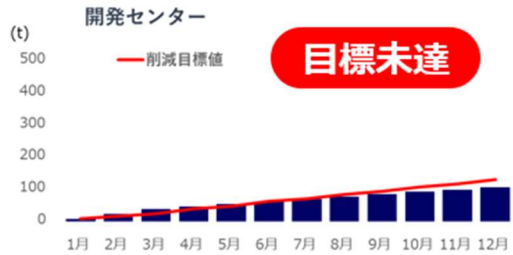
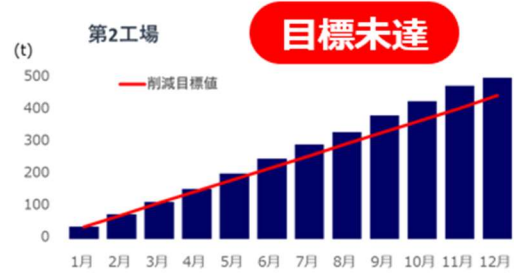
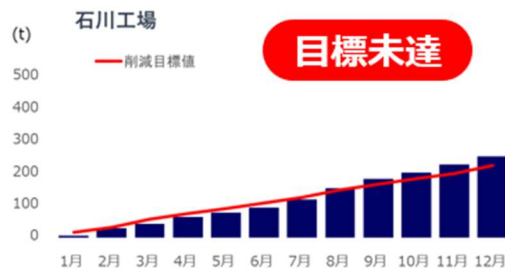
① 省エネルギー関連



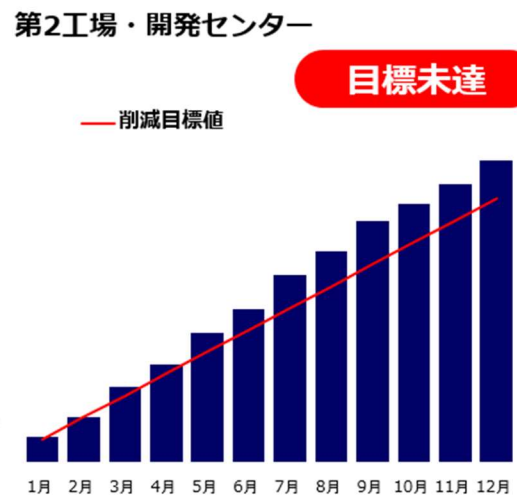
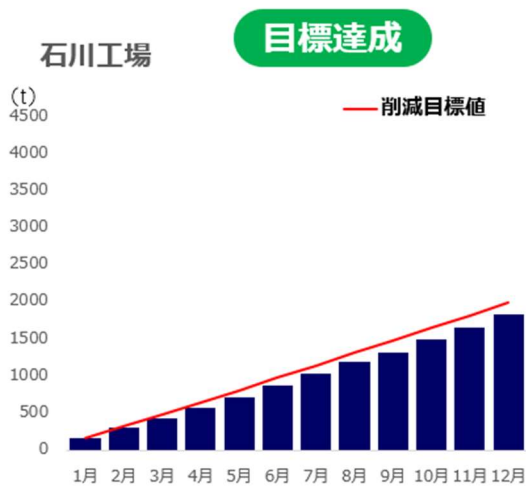
② 省資源・廃棄物削減 関連



ピット汚泥引き取り量



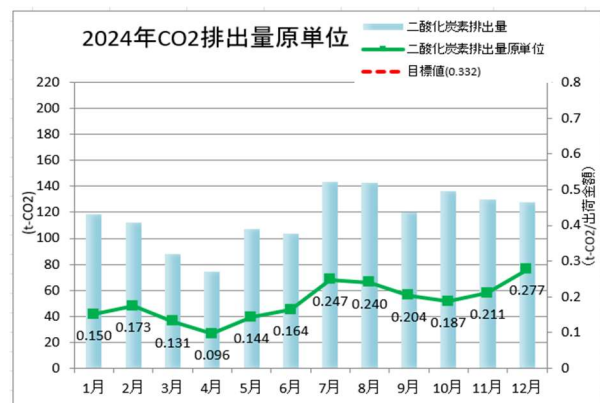
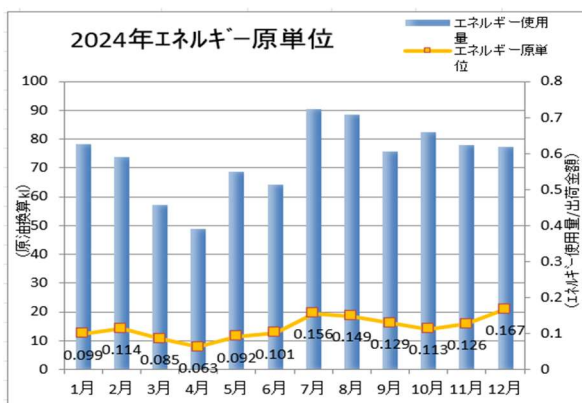
井水・上水使用量



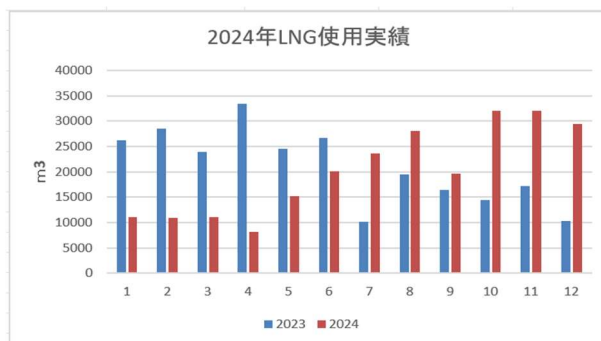
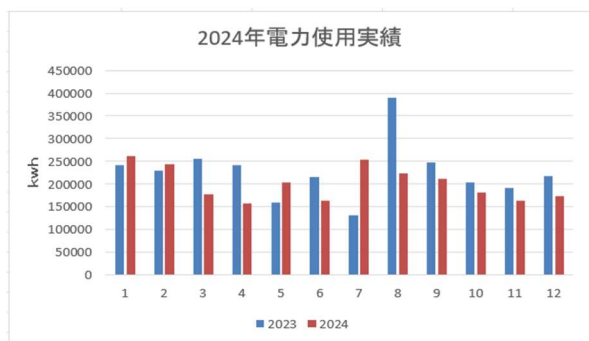
関西工場

① 省エネルギー関連

＜原単位の推移＞

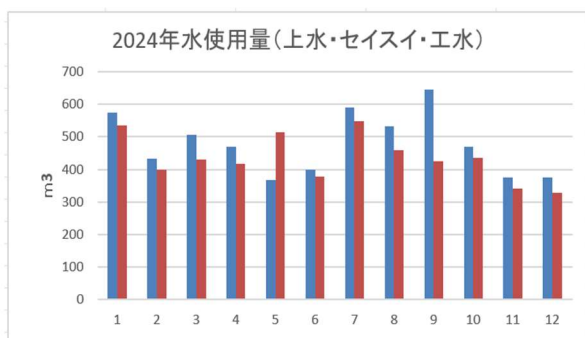


＜エネルギー使用量の推移＞

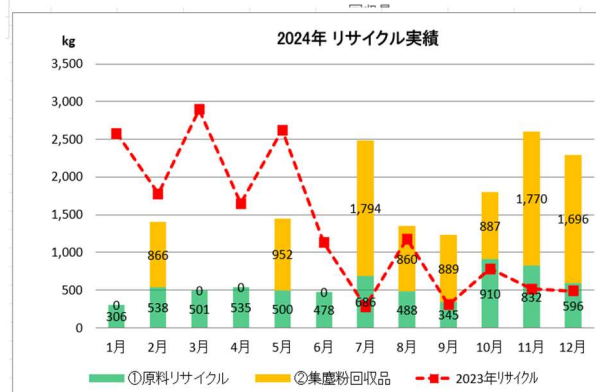
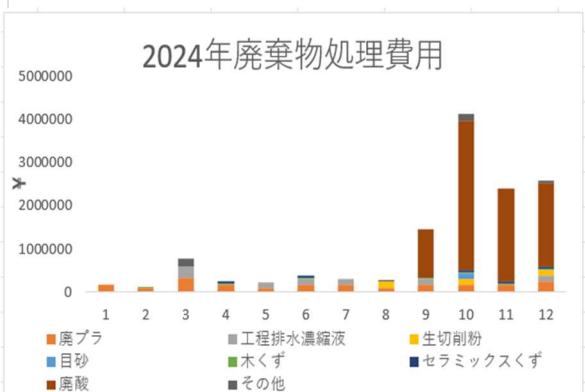
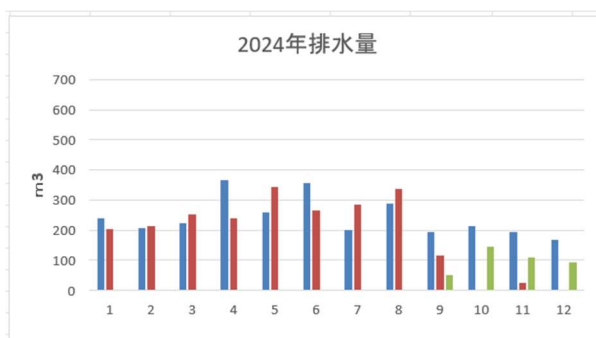


② 省資源・廃棄物削減 関連

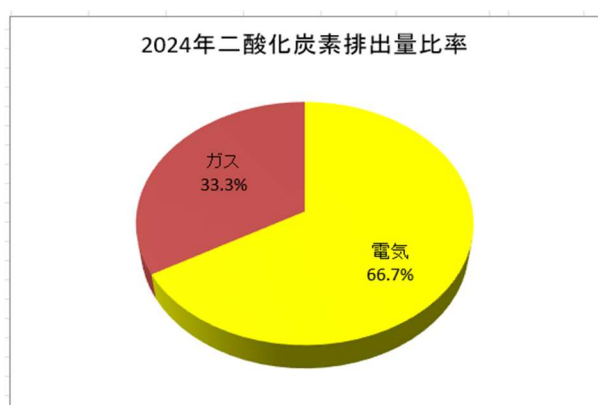
＜水使用量の推移＞



＜排水量の推移＞



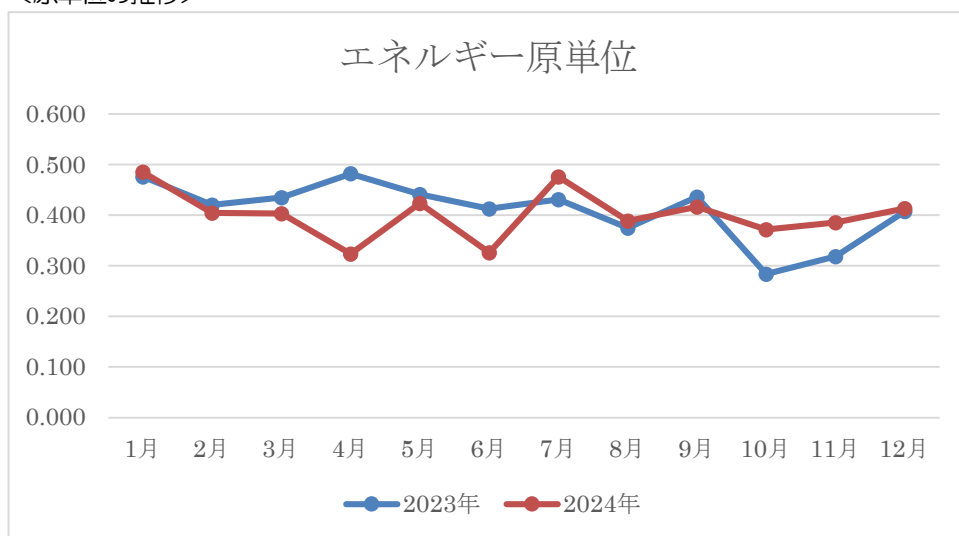
＜二酸化炭素排出量比率＞



岡山工場

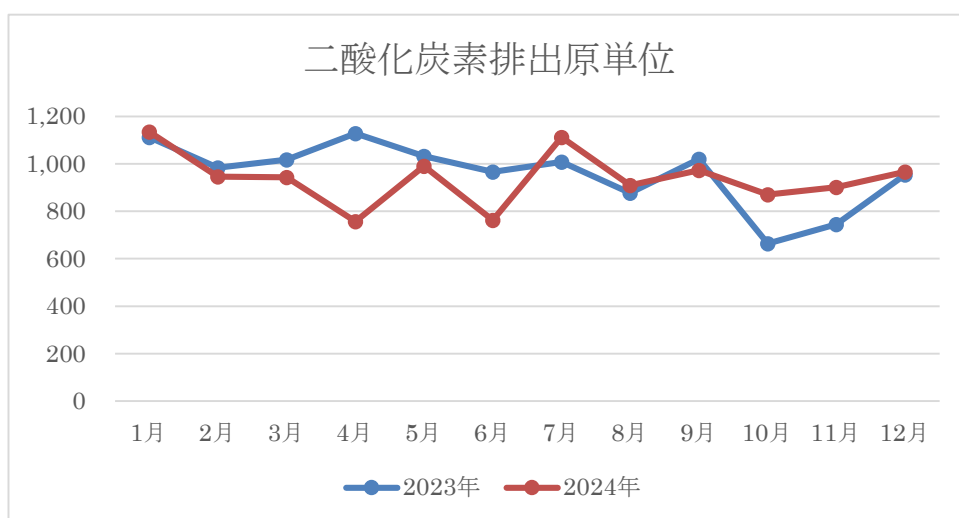
① 省エネルギー関連

＜原単位の推移＞



② 環境 関連

＜CO2 排出換算の原単位推移＞



＜水使用料の推移（原単位）＞

